







「こいつが  
欲しかったん  
だろ？」

「くわえるよ  
ほらっ」



「俺たちが受験で頑張ってる時に  
こんなところでいちやいちや  
いちやいちやしやがって……クソ  
目障りなんだよ下級生！」

「どうせ暇でヤル事しか  
考えてないんだろ？」

「親切な俺たちが  
してやるから  
ありがたく思え！」

「こいつのこころちっちえ〜  
グイグイしめてきやがるぜ」

「おらっこっちももっど  
気合い入れてなめる！」








「んん…んん…っ」

「ん…くうう  
気持ちよすぎて  
もうダメだ…  
そろそろいくぞー!」



「俺もイキそう…  
だすぞ…膣内に  
……………  
でる…でるっ」

「ん…ん…  
ん…ん…っ!」

「ん…ぷあっ…かつ  
はうあああああ〜」

「ふう、何だか急に  
集中力が切れたな  
どうする…」

「今日はこの辺にしといて  
ゲーセンでもいくか?」

「いいねえ〜」

「……………」

「……………『イイイイ』……………」



「ちっ!」

「まったく…」

頭の悪さを人のせいに  
すんなったつゝの」

「しかも自分たちだけ  
勝手にイキやがって!」

「リン」…  
「…これっ…」

「これ…じゃないだろ」

「何やってんだよ」

あんなひよろひよろもやしに  
あつさり押さえてごまれちゃってさ」

「それに彼女が  
レイプされてる姿観て  
勃起してたの…」



「めんどくさいなあ——♡」

「リン」……

そうじゃなくて

テープを……うっ

やばいって!」

「また困った顔した」

「当たり前だろ

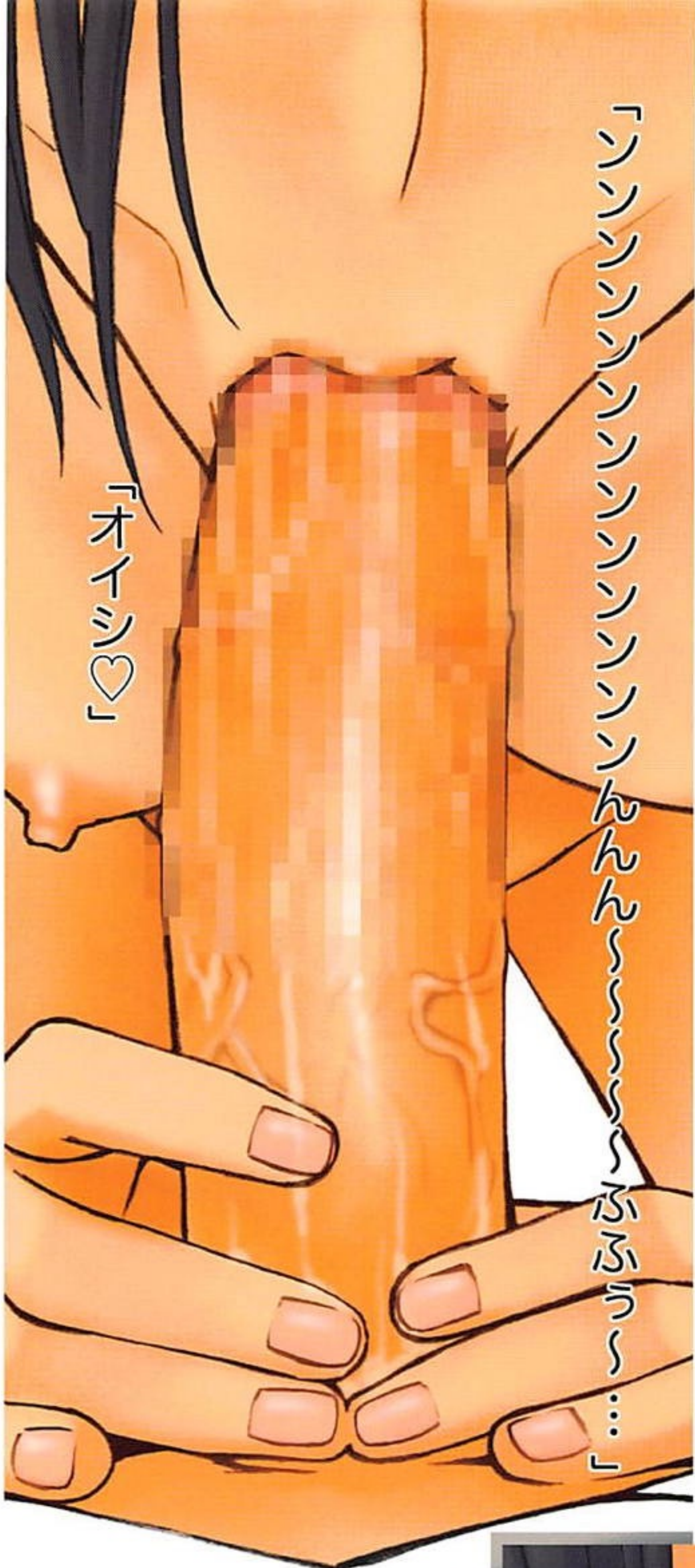
さっきのこともあるし……

まだここは図書室なんだぞ」



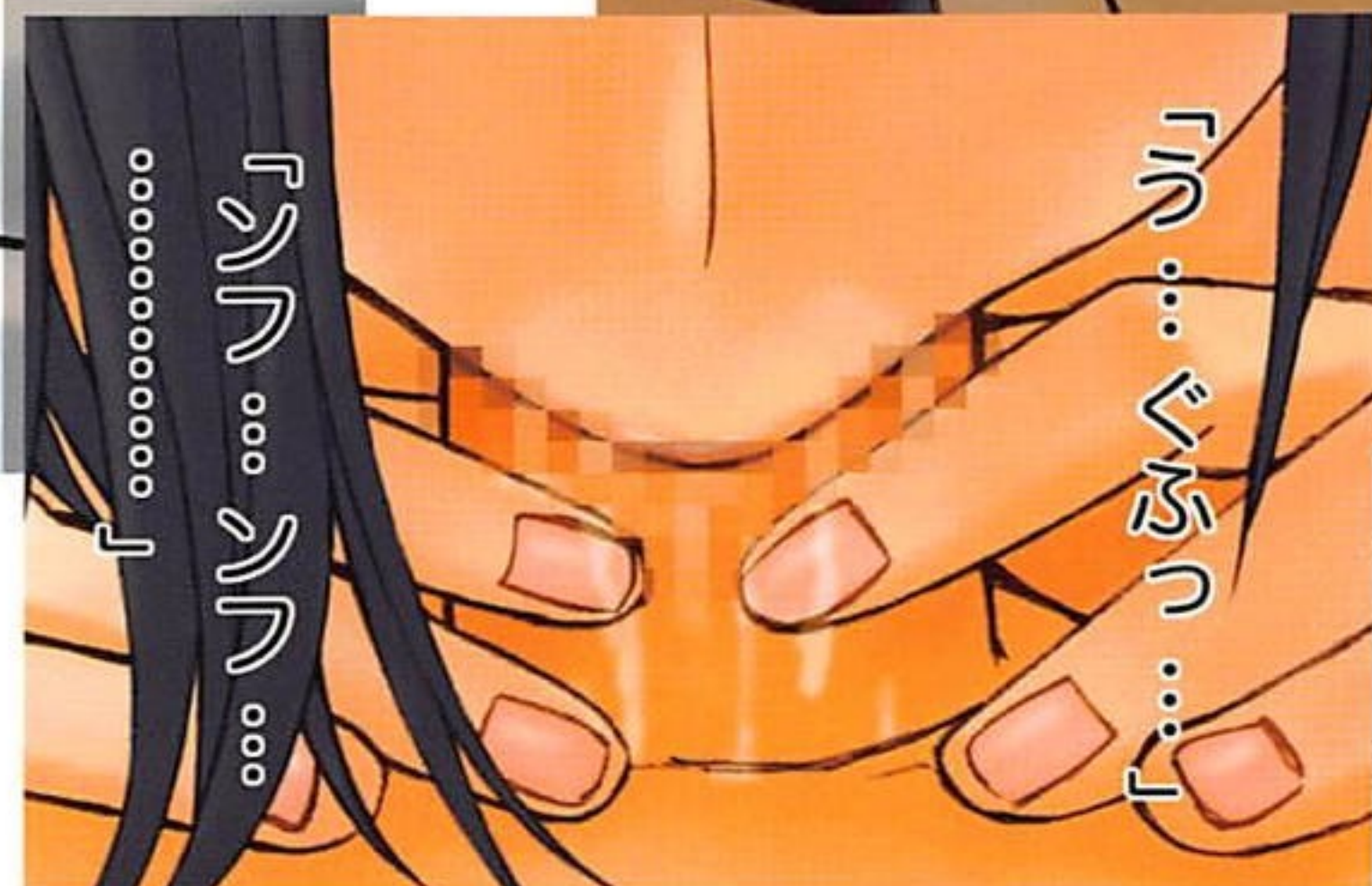


「いいんだよ  
今日は盛りのついた  
ネコリンコだもん  
どこでもにゃんにゃん  
しちやうもんね♡  
^^^.....」



「♡オイシシ」

「.....」



「.....」

「.....」



「ああ〜もうだめだ！我慢できない……」

「でっしょっ……」

「そうだと思って入れてあげた♡」





「やっぱり大きい…

入れてるだけで何もしなくても  
脈をうつのが伝わってきて

どんだん気持ちよくなっちゃう

……んんっ……ん

満点おちんちんだね♡」

「それじゃあ

腰は動かしてくれないの」

「わかってるくせに  
イジワルしないで」





「なんか  
もうヤバいかも……」

「アంతタとのセックス♡」



「後ろも気持ちいい……  
これアリかなシかって……  
……アリ♡」

「今すごく幸せなんだけど  
わかってる?」



「想像してたよりずっとドキドキして  
いっぱいいいっちゃった♡」

「一人だけで先にイッたり  
しないのはリン」のこと  
大切に思ってくれてるんだね」

「まあね…  
そういってもらえると  
がんばったかいが  
ありましたよ」







「ごめん  
それ無理」

「うわっ……わっ……わっー!」



「なんで?」

「調子に乗るなっつーの」



「それじゃ…  
さっきの奴らゲームで  
ボコって来るから」



- 奥付 -

誌名：「うぶふうす」

発行日：2009/12/31

発行者：Dish up

印刷：コーシン出版様

発行者連絡先：

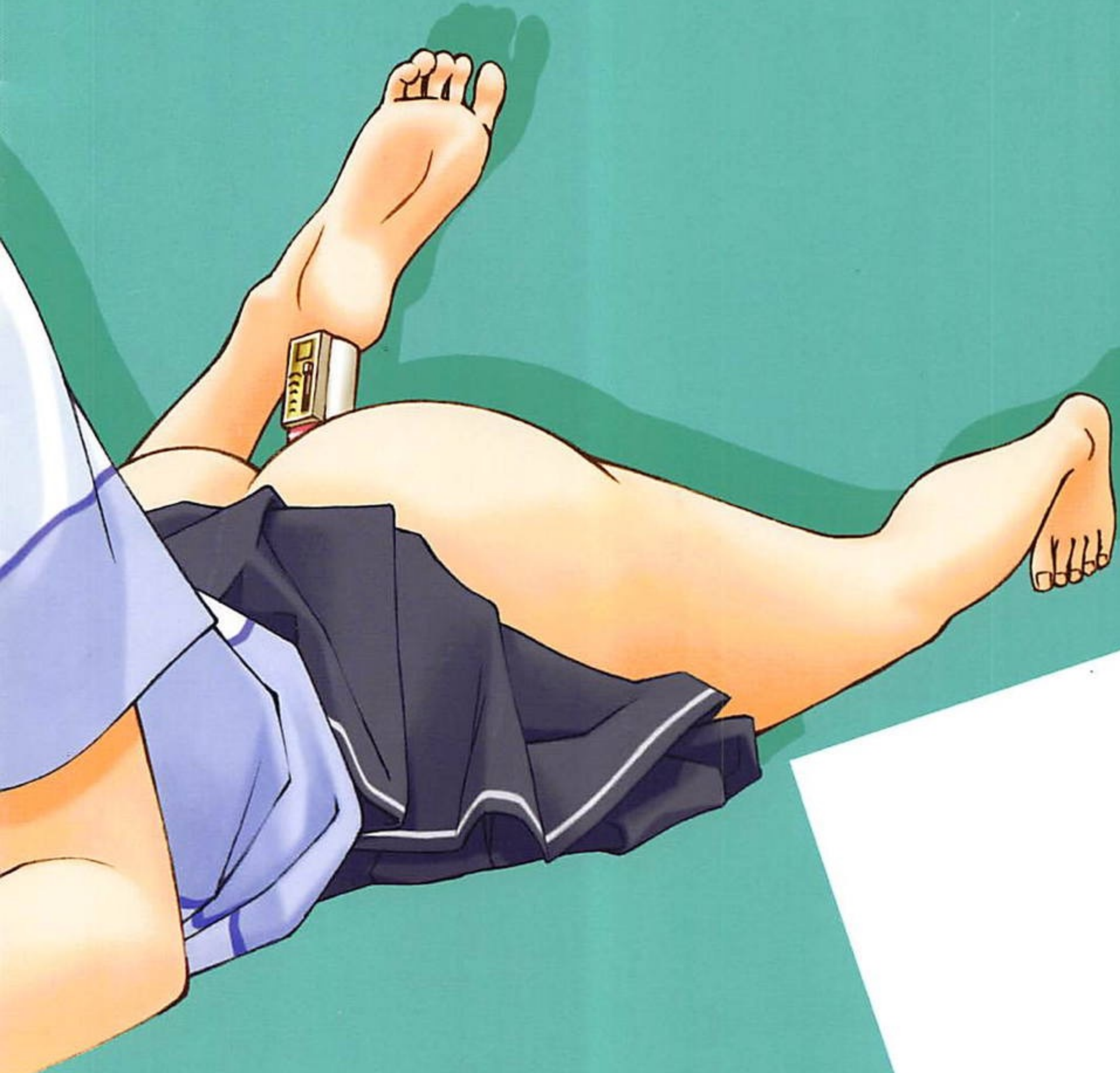
dish\_up@jcom.home.ne.jp

※禁：無断転載、複製

十八歳未満購読



Dish up  
Dish up



18禁